

羅 針 盤			達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 自分の学校が好きだと感じている生徒が90%以上。	A	A	A	○授業満足度をさらに向上させるとともに、ICTの活用や探究活動の充実を図る。教育目標達成に向け、全職員による組織的な教育活動を推進する。 ○今後もより効果的な教育活動となるよう身に付けさせたい力を明確にしていき、既存の行事の見直しを行っていく。学校行事を通し、達成感や自己肯定感を育んでいく。	・令和7年度の統合を控え、両校が、新高校への円滑な移行に向け、教育課程を合わせようとしたり、学校行事などで生徒の交流を図ろうとしたりして、努力・工夫をしているのがよくわかった。お互いの学校評価を参考にするなどして、両校の特色や魅力ある部分が生かされる形で統合が進めばいいと思う。	○本校の特色ある教育活動について、その趣旨を全職員で共通認識を深めるとともに、実践を振り返り、統合を見据えた変更や見直しを含めて、さらによいものを模索していく。
		② 学校行事や生徒会行事等を通してクラスの和が高まったと感じている生徒が90%以上。	A	A	A			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	③ 生徒の実態を踏まえ、到達度に応じた学習指導を実施することで、学習に対する達成感・満足感を持つ生徒が80%以上。	A	A	A	○生徒の特性や進路希望に合ったきめ細かな指導ができるよう、より効果的な少人数指導、習熟度別指導を研究していく。 ○ICT機器を積極的に活用し、生徒が各家庭において個別最適化な学びに主体的に取り組む姿勢を育む。職員生徒間で認識にやや隔たりがあり、データを分析し対応したい。	・実際に授業を参観してみて、少人数の授業では、生徒が活躍する場面が多くあり、雰囲気もよく、学習に対して積極的な姿勢が目立っていた。また、オールイングリッシュの授業を生徒がきちんと理解し、楽しんでいる姿が印象的だった。	○更なる学力向上を図るために、読解力・思考力の向上に関わる研修等を実施し、教師の指導力の向上を図る。 ○二者面談等を利用し、生徒一人一人に家庭での過ごし方を生徒に見つめ直させ、主体的に学習に向かう姿勢を醸成する。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	④ 授業以外での1日あたりの平均学習時間が2時間以上である。	D	C	D			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑤ 職員会議等で生徒に関する情報交換を月に1～2度行う。	A	A	A	○生徒情報について全職員が共有するファイルを活用し、職員間で共通理解ができている。入学時からの生徒の様子や対応状況が継続的に把握でき、組織的な対応に有効であった。 ○担任、養護教諭、部活動顧問、SCなどさまざまな視点から生徒の様子を把握していく。悩み事アンケートの結果から二者面談を通じて、組織的に動いて解決につなげている。	・二者面談等をまめに行うなど、きめ細やかで丁寧な指導はありがたいと感じている。 ・「体験型webアプリ」による疑似体験をすることで、生徒はいじめについて再認識し、いじめ防止につながと思う。今後もさらにいじめ防止の取組を進めてほしい。	○生徒指導の情報については、細かな情報についても全職員で共有し、生徒の指導の際に役立てる。また、各学年で起こった生徒指導情報が各学年で留まらないように管理職・生徒指導主事へ連絡・報告し、組織的に対応できるように努めていく。
		⑥ 学級担任等による個人面談が効果的と考えている生徒が80%以上。	A	A	A			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦ いじめ発生防止と早期発見に努め、発生した場合のいじめ解消率が100%。	A	A	A	○県作成の「体験型webアプリ」等を利用し、生徒自身の意識高揚を図り、未然防止に努めていく。 ○マスクで表情が伝わりにくいので、元気に明るい声で挨拶する。挨拶を通じて、心身の健康状態を良好に保てるよう努める。	・SNSのトラブルをいじめと認知したの は評価できる。成人年齢引き下げによって未成年ではない生徒もいる中、社会的責任について自覚を持たせ、してはいけな いことの線引きをすることが大切だと思う。	○いじめ防止や早期発見に対する学校の取組を、学校HPや保護者集会等の場面で積極的に周知していく。 ○生徒一人一人が考えて行動できるように支援を続け、高い道徳性を身に付けられるよう努める。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑧ 自らあいさつができる生徒が90%以上。	A	A	A			
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑨ 進路実現にむけて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上。	A	A	A	○進路希望調査等から生徒の実態を把握し、キャリア意識、学習意欲が高まる取組を推進する。 ○オープンキャンパスへの参加や、大学見学会、本校での模擬授業などを通し、進路意識をさらに高める。 ○教員と生徒間で評価にやや乖離がある。面談等で実態把握に努める。	・アンケート結果では勉強時間が少ないとのことだが、実績は出ている。進路実現の達成が高校での教育活動にとって重要である。	○キャリア教育や探究活動を通して進路意欲・学習意欲を高めていく。担任等による計画的・継続的な面談を実施し、進路についてより具体的な行動の実行につなげていく。 ○各教科や日々の課題が、生徒にとってより最適なものとなるように改善を継続し、日々の主体的な学習につながるように、さらなる充実を図る。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑩ 大学などの進路情報を積極的に収集しようとしている生徒が80%以上。	A	A	A			
		⑪ 部活動と学習の両立が出来ている生徒が80%以上。	A	A	A			
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑫ 学校の教育活動を理解してもらうために授業動画や動画配信を年2回以上実施する。	A	A	A	○3年ぶりに授業参観を実施した。今後も授業公開する機会を設け、関心をさらに喚起するとともに、効果的なPR方法を模索する。 ○今後もホームページ更新をタイムリーに行っていく。また、内容を充実させ魅力ある情報発信に努める。	・統合に向けての「新高校生徒委員会」の発足や教室DXプロジェクトなどがメディアで取り上げられた。今後も生徒中心の活動が盛んで活気がある様子が外部に伝えられるとよい。	○引き続きHPの充実を目指し、より多くの教員がHP操作をできるよう環境整備を行い、更新頻度を高めていく。最新かつ適確な情報の提供に努める。
		⑬ 学校通信の年6回以上発行や、行事ごとにホームページの更新を行い、最新の情報を発信する。	A	A	A			
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑭ 学校全体のICT教育活動に満足している生徒が80%以上。	A	A	A	○ICTの活用を望む生徒は多い。活用例の情報を収集し、教科会議等で共有していく。 ○活用実績の共有を進めるとともに、「分かる授業」への研究を続ける。 ○欠席等連絡、アンケート、職員会議資料等のデジタル化など、随所に工夫が見られた。一方で、その利用法や対応について問題が生じないように注視していく。	・欠席等連絡のデジタル化などICTをうまく活用している。また、連絡を受けっぱなしにすることなく、電話をかけて様子を確認するなど丁寧な対応している。	○ICT機器を使うこと自体が目的となることがないように、デジタル化による学習効果を評価・検証し、「分かる授業」目指し研究していく。 ○ICTを利用した情報発信や、アンケート回答・意見集約などデジタル化を推進し、事務作業時間削減及び業務効率化を目指す。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑮ クロームブックを活用できている教師が80%以上。	B	B	B			
		⑯ ICTを使うことによって、効率よく仕事ができている教師が80%以上。	C	B	B			